

## ■ 平成27年7月27日（月）観光振興対策特別委員会県内調査

### 1 馬見丘陵公園

#### ア 調査目的 馬見丘陵公園のにぎわいづくりについて

#### イ 施設概要

- 【面積】約56万㎡（甲子園球場約17個分）  
広陵町と河合町にわたって位置。
- 【見どころ】馬見花苑、ダリア園、バラ園、菖蒲園、  
古墳群（ナガレ山古墳、巢山古墳等）
- 【施設等】公園館、花見茶屋、カフェレストラン、駐車場等

#### ウ 調査概要

- ・昭和59年から事業に着手し、平成3年に第1期オープン。公園館周辺の約10万㎡がオープンし、順次オープンを経て、平成24年に全面オープンとなった。
- ・平成22年度には、平城遷都1300年祭に関連して花のイベントを開催し、知名度も上がってきている。
- ・馬見丘陵公園全体で、年間約19万人が訪れる。
- ・花に関するイベントの実施状況  
春：チューリップフェア、90日間、来訪者9万人、夏：花菖蒲祭り、16日間、来訪者2万人  
秋：フラワーフェスタ 16日間、来訪者13万人、食のイベント（フェスタ）と同時開催。
- ・夏期と冬期は訪問者が少ないので、誘客を図るため、夏期のイベントとして8月1日からひまわりウィークを実施する。冬のクリスマス期にもイベント等を検討中。
- ・ボランティアが、苗の植え付けや草花の管理などの活動を行っており、公園の知名度の上昇に伴い、ボランティアの人数も増加している。
- ・ナガレ山古墳は、小学校6年生の教科書に掲載されていることから、愛知県や三重県など中京圏の小学6年生の修学旅行で来訪される。
- ・公園ということで今までは訪問者を待っている状況だったが、今は観光ということから各地で開催されるいろいろなキャンペーンに出かけて積極的にPRしている。

#### ウ 質疑応答

Q：花笑み橋から緑道北口まで細く伸びている緑道とは何か。

A：開園当初は、交通手段は車のみという状況だったが、電車など公共交通機関でも気持ちよく来てもらえるように近鉄池部駅まで公園をつなげようということで、この緑道の部分について、当初の計画決定に追加して公園の一部として整備した。

Q：花の管理には、相当な労力と専門的知識を要すると思うが、どのようにしているのか。

A：開園当初から、シルバー人材センターに管理してもらっている。ただし、それだけでは充分と言えないため、業者による管理やボランティアによる管理の部分もある。特にダリアの管理は難しいので、プロポーザルをして業者から技術提案をしてもらう形で選定している。また、職員も慣れてくるにつれていろいろなノウハウが蓄積されるので、それに頼っているところもある。

Q：今後どのような形で馬見丘陵公園をアピールしていくのか。

A：いろいろな場所へ出て行って公園のPRを行ったり、雑誌への掲載をできるだけ増やしていきたい。また、新聞報道についても、記者に情報を提供し取材に来てもらうよう依頼するなど、できるだけPRの方法を工夫して地道に積み重ねていく。



## 2 唐古・鍵遺跡

### ア 調査目的 地域資源を活用したにぎわいづくりについて

### イ 調査概要

#### <唐古・鍵遺跡の概要>

面積：42万㎡ 東西700m、南北800m。

発掘調査：1936年から唐古池の第1次調査が始まり、現在、第116次調査。

調査面積：36,378㎡。全体の8%程度。

- ・遺物は、日本を代表する遺跡の資料として研究者から評価されている。1992年に楼閣が描かれた絵画土器が出土し、日本で唯一として新聞1面にも掲載され非常に注目された。
- ・第47次調査で出土した絵画土器の楼閣をもとに、1994年、唐古池の西南隅に楼閣を復元。
- ・平成11年に国史跡指定となり、公有化事業を進め、地元の協力を得てほぼ公有化を終えている。
- ・田原本町では、(仮称)唐古・鍵遺跡史跡公園の整備事業を進めているところであり、「弥生時代の風景の再現と出来事の再現」を整備基本方針としている。
- ・工事の進捗状況は、平成21年度から25年度に第1次造成を行い、平成26年度から第2次造成を始め、本格的な復元工事に入った。平成30年度の開園を目指して進めている。
- ・史跡公園の開園にあわせて、隣接用地において、来訪者と地域住民とのふれあいや交流及び田原本町の観光等の情報発信について効果的かつ継続的に実施することを目的とする交流促進施設の整備を計画している。

#### <唐古・鍵考古学ミュージアム>

- ・常設展示面積：347㎡、展示資料数：約968点
- ・田原本町の考古資料を中心とした展示品で構成し、特に唐古・鍵遺跡の出土品が9割を占めていることが特徴である。
- ・国の指定文化財を含め弥生時代の遺物、実物資料を見ることができることから、考古学愛好者等から非常に注目されている。
- ・単なる考古資料の展示というのではなく、「考古学」という学問を通して、弥生の情報発信基地になることを目指している。

### ウ 質疑応答

Q：唐古池について、将来的にどのように位置付けられるのか。

A：唐古池自体は、江戸時代につくられた農業用のため池である。地元の水利権があり、史跡公園整備として取り組んでいるが、池はそのまま残しながら活用していくことになる。

Q：来訪者はどのくらい見込んでいるのか。交流施設の駐車場について、乗用車、バスの収容台数はどのくらいか。

A：今年度実施設計の予定である。およそ乗用車100台程度、バス5台程度を考えているが、建物、土地利用の範囲によって若干変更もあり得る。来訪者について、交流施設のメニューを計画しているところなので、ターゲットを絞り込んでいきたいと考えている。



### 3 奈良文化財研究所藤原宮跡資料室

#### ア 調査目的 飛鳥・藤原地区における観光振興について

#### イ 施設概要

【開館時間】 午前9時～午後4時30分

【休館日】 年末年始、展示替え期間中

【入館料】 無料

【駐車場】 有り（無料）

#### ウ 調査概要

- ・奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）は、飛鳥・藤原地域に残る遺跡の発掘調査や整備をおこない、出土した遺物の調査や保存整理にたずさわる研究機関である。
- ・藤原宮跡資料室は、調査部の公開部門として、平成元年6月から開館している。
- ・平成24年4月から橿原市が資料室を借り上げ、土日祝日も開館している。
- ・土日祝日開館に係る費用は、橿原市で電気代、水道代を負担している。また、受付業務は、市が直接業務委託またはボランティアによる対応により運営している。
- ・橿原市コミュニティバスの運行ルートの一部変更によりアクセスの確保が図られたことで、入館者数は、土日祝日開館もあり、従来の4,000人程度から9,000人程度にまで増加した。さらに、平成27年9月から、吉野大峯ケーブル自動車株式会社が吉野から万葉文化館経由で大和八木駅間のマイクロバス運行の開始を予定されており、さらに入館者数の増加が見込まれる。

